

# 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告（概要）

## 1 体力合計点の状況について

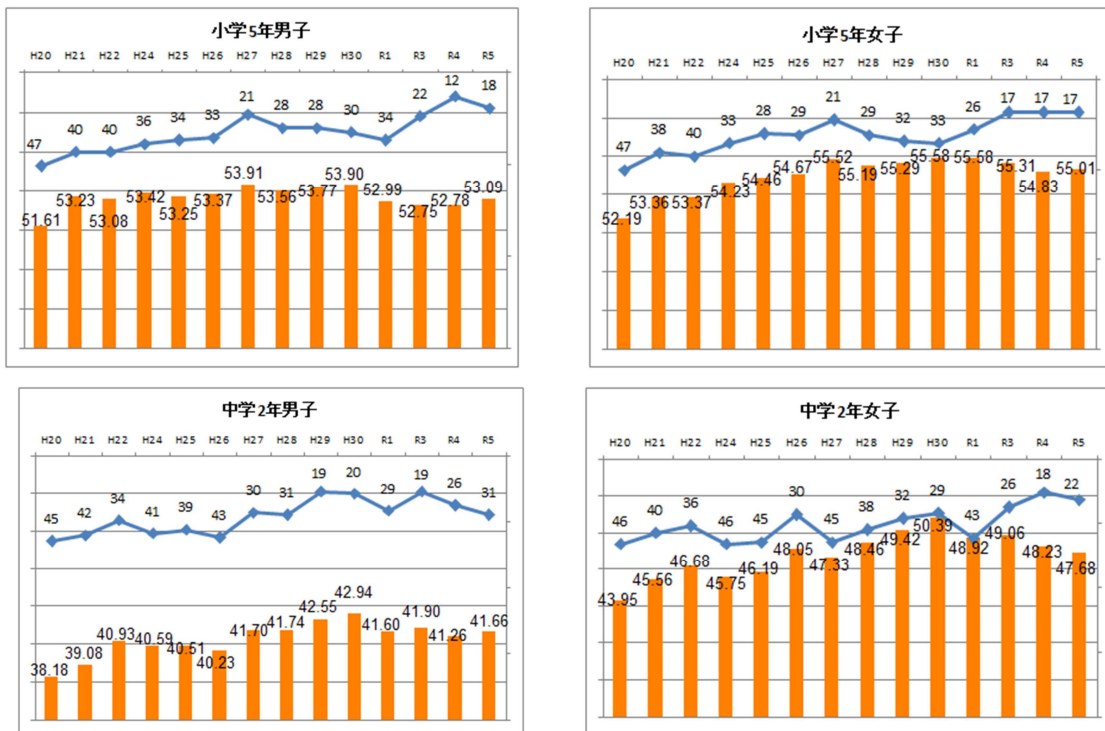
- ・全国の公立学校の体力合計点は、令和4年度の結果と比較すると、小学校男子、中学校男子はやや上回り、小学校女子はほぼ同じ、中学校女子はやや下回っている。  
 （全国 小男 52.59 (R4:52.28)、小女 54.28 (R4:54.31)、中男 41.32 (R4:41.04)、中女 47.22 (R4:47.42)）
- ・高知県の体力合計点は、令和3・4年度に引き続き、小・中学校の男女ともに、全国平均を上回る結果であった。全国順位は、小学校男子が18位 (R4:12位)、小学校女子が17位 (R4:17位)、中学校男子が31位 (R4:26位)、中学校女子は22位 (R4:18位)であった。
- ・また、令和4年度の県の結果と比較すると、小学校男女・中学校男子はやや上回り、中学校女子はやや下回る結果となった。  
 （県 小男 53.09 (R4:52.78)、小女 55.01 (R4:54.83)、中男 41.66 (R4:41.26)、中女 47.68 (R4:48.23)）

## 2 総合評価の状況について

- ・高知県の総合評価※<sup>1</sup>を全国平均と比較すると、小・中学校の男女ともに、上位のA B群の割合は高く、下位のD E群の割合は低い。
- ・また、令和4年度の結果と比較すると、上位のA B群の割合は、小・中学校の男子において増加し、下位のD E群の割合は、中学校女子を除いて減少している。

※<sup>1</sup>総合評価：体力合計点のよい方からABCDEの5段階評価で評定した体力の総合評価

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における体力合計点及び全国順位の推移（高知県）】



(棒グラフ：体力合計点 折れ線グラフ：全国順位)

### 【総合評価の比較】

#### (1) A B群

(数値は%)

	小男	小女	中男	中女
R5 全国	32.2	37.2	32.7	52.9
R5 県	35.0	40.8	34.6	55.6
R4 県	32.6	41.5	33.9	57.0

※      は、R5 全国・R4 県よりも増加

#### (2) D E群

(数値は%)

	小男	小女	中男	中女
R5 全国	35.8	29.3	32.7	19.1
R5 県	33.8	26.4	31.6	17.9
R4 県	34.1	28.4	32.3	16.6

※      は、R5 全国・R4 県よりも減少

### 3 運動習慣・生活習慣・運動部活動の状況について

- ・体育の授業以外における1週間の総運動時間(分)は、全国と比較すると、小学校女子は上回っているが、小学校男子、中学校男女は下回っている<sup>※2</sup>。また、令和4年度の本県の結果と比較すると、小学校は男女ともに下回っている。中学校は男子がほぼ同じ、女子が下回っている<sup>※3</sup>。  
※2 (小男 517.0 (全国:544.6)、小女 328.0 (全国:321.6)、中男 686.0 (全国:729.0)、中女 472.3 (全国:504.3))  
※3 (小男 517.0 (R4:540.1)、小女 328.0 (R4:362.8)、中男 686.0 (R4:689.3)、中女 472.3 (R4:520.7))
- ・小学生の地域のスポーツクラブへの加入率を全国と比較すると、男女ともに低い。  
(小男 59.2% (全国:65.6%)、小女 40.6% (全国:49.2%))
- ・1日4時間以上のスクリーンタイム(平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間)の割合を全国と比較すると、小学校女子はほぼ同じであるが、小学校男子、中学校男女は高い。  
(小男 30.0% (全国:28.2%)、小女 23.4% (全国:23.8%)、中男 34.4% (全国:29.7%)、中女 33.2% (全国:28.4%))
- ・中学校における運動部活動の1週間の総運動時間(分)は、男女ともに全国平均を上回っている<sup>※4</sup>。また、令和4年度の本県の結果と比較すると、総運動時間(分)は男子はほぼ同じ、女子はやや下回る結果となっており、引き続き運動部活動ガイドラインで定める適正な活動時間(660分)の遵守が求められる<sup>※5</sup>。  
※4 (中男 719.0 (全国:665.2)、中女 693.7 (全国:657.9)) ※5 (中男 719.0 (R4:714.9)、中女 693.7 (R4:708.2))

### 4 学校の取組について

- ・「令和4年度に、児童・生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定した」の割合を全国と比較すると、小・中学校ともに高い。  
(小 92.2% (全国:79.3%)、中 89.4% (全国:71.5%))
- ・「令和4年度の全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査の結果を踏まえた取組をしている」の割合を全国と比較すると、小・中学校ともに高い。  
(小 71.5% (全国:55.7%)、中 68.3% (全国:53.7%))
- ・「運動やスポーツが苦手(嫌い)な傾向がある児童・生徒向けの取組、または技能の程度に応じた取組を現在行っている」の割合を全国と比較すると、小・中学校ともに高い。  
(小 63.7% (全国:50.7%)、中 74.0% (全国:66.5%))
- ・「体力に関する調査の結果を家庭に連絡している」の割合を全国と比較すると、小・中学校ともに低い。  
(小 28.5% (全国:51.1%)、中 17.3% (全国:32.6%))

### 5 調査結果を受けて

- ・令和元年度から体力の低下が見られ始め、新型コロナウイルス感染症の影響によりその傾向が続いていたが、中学校女子を除いて改善が見られ始めた。
- ・主な要因としては、
  - ①学校における授業改善の取組(運動が苦手、嫌いな傾向にある児童生徒向けの取組、全ての児童生徒に運動の楽しさや喜びを味わわせる取組)が進んでいること
  - ②学校における組織的な取組(学校全体での目標設定、調査結果を踏まえた授業改善や授業以外での取組、「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を活用した、小中学校9年間を見通した系統的な体力向上の取組)が進んでいること などが考えられる。
- ・それに加え、体育の授業以外における1週間の総運動時間が増加することにより、さらなる向上が期待される。そのため県教育委員会は、引き続き各学校において行われている授業改善や組織的な体力向上の取組を支援するとともに、児童生徒がそれぞれの地域において継続的にスポーツができる持続可能な環境が整備されるよう、各市町村における子どものスポーツ環境の整備や中学校における部活動の地域連携・地域移行を支援していく。